



鈴木雄介
《小学校の入学式を終えて帰宅する娘と母》 埼玉 2023年

写真展

在日クルド人

来日の背景と埼玉での暮らし

鈴木 雄介
Refik Tekin
上田 恵利加

2023年10月12日(木)～15日(日)
川口市立アートギャラリー・アトリア
開場時間:10:00～18:00(最終日は15:30終了)
入場料:無料
主催:在日クルド人と共に
助成:一般財団法人大竹財団

写真展 在日クルド人

来日の背景と埼玉での暮らし



上田恵利加
《子羊と共に》トルコ 2023年



日本には現在300万人を超す外国籍の人が暮らしています。日本の人口減少、少子高齢化と共に、様々な分野で働く外国籍の人が増え、日本で生まれ育った海外ルーツの子どもたちも増えています。すでに日本は移民社会となっていますが、日本政府は「移民政策は取らない」という姿勢を取り続けており、実態を認めようとしません。外国籍の人に対する公的な日本語教育がほとんどないため、当事者が日本社会から孤立してしまうことも多く、これからの社会統合に向けた展望は見出せません。

また、日本政府は難民条約に加入しているものの、実際にはほとんど難民を受け入れておらず、今年改定された入管法では、2回難民申請が不認定になった人は、3回目以上の難民申請中でも強制送還の対象とされてしまい、更に厳しい状況になろうとしています。

一方で言葉や文化の違いから地域社会で生活上のトラブルが起きているのも事実です。川口市は日本で最も外国籍の人口が多い自治体(※)ですが、トラブルの解決には偏見を排し、事実の確認と分析、相互の理解と歩み寄りがが必要です。それには時間がかかります。課題解決のためには包括的な移民統合政策も欠かせません。

私たち「在日クルド人と共に」は、埼玉県南部に暮らすトルコ国籍のクルド人と交流を重ねてきました。今回の写真展は、日本に暮らすクルド人の背景を知ると同時に、彼女・彼らの生きる力を感じてもらい、共に暮らす社会を考える契機にしたいと企画しました。

※川口市には約4万人の外国籍の人が暮らしています。そのうち中国国籍の人が約60%を占め、トルコ国籍の人は約4%です。仮放免などの非正規滞在で住民票がないトルコ国籍の人々は数百人いると推測されます。そうしたトルコ国籍の人々の多くはクルド人だと考えられますが、クルド人ではない「トルコ人」も増えています。



Refik Tekin
《市の大部分が破壊されたカブラマンマラシュの中心部》トルコ 2023年



鈴木雄介
《日本語教室に参加する人たち》埼玉 2022年

関連企画展

「わたしたちは帰れないー迫害、大地震から逃れたクルド人たち」

10/20(金)~10/28(土) 13:00~19:00 10/23(月)、25(水)休み

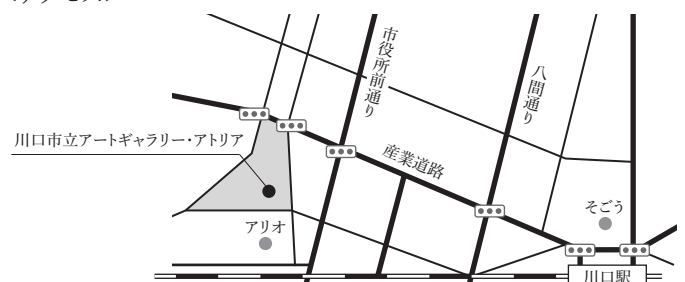
10/22(日)19時から会場内でトークイベント開催予定

場所:IRREGULAR RHYTHM ASYLUM

東京都新宿区新宿1-30-12-302 東京メトロ丸ノ内線新宿御苑駅徒歩約5分

主催:クルド人難民Mさんを支援する会 shukaori@yahoo.co.jp

<アクセス>



埼玉県川口市並木元町1-76 JR京浜東北線川口駅東口から徒歩約10分

<主催・お問合わせ>
在日クルド人と共に

Tel:048-400-2267
mail@kurd-tomoni.com
http://kurd-tomoni.com

